

①事業名	【60】ナショナルトレーニングセンターの整備 (総理の指示によるナショナルトレーニングセンター中核拠点の早期整備)	
②主管課	(主管課) スポーツ・青少年局競技スポーツ課 (課長: 小見 夏生)	
③施策目標及び達成目標	施策目標 7-2 我が国の国際競技力の向上 達成目標 7-2-2 ハード・ソフト両面において充実した機能を有するナショナルレベルの本格的なトレーニング拠点の整備を進める。	
④事業の概要	本事業は、トップレベル競技者の強化のため、ハード・ソフト両面において充実した機能を有するナショナルレベルの本格的なトレーニング拠点を整備するものである。 2008年の北京オリンピックに間に合うよう整備計画を前倒しすることについての内閣総理大臣からの指示(平成16年9月)に従い、用地の取得、屋外トレーニング施設・屋内トレーニング施設・宿泊施設の建設工事を行うことにより、平成19年中までに施設を完成させようとするものである。	
⑤予算額及び事業開始年度	平成18年度概算要求額: 5,379百万円 (平成17年度予算額 4,179百万円) 事業開始年度: 平成13年度	
⑥事業開始時において得ようとした効果	トップレベルの競技者や地域の優れた素質を有する競技者が計画的・集中的・継続的にトレーニングを行うことが可能となる環境を創出する。	
⑦得られた効果	順調に整備が進捗している。	
⑧得ようとする効果	<b>【得ようとする効果】</b> トップレベルの競技者や地域の優れた素質を有する競技者が計画的・集中的・継続的にトレーニングを行うことが可能となる環境を創出する。 <b>【上位目標との関係】</b> 日本選手の強化により国際競技力の向上に資する。	⑨達成年度 平成20年度
⑩必要性	施策目標 7-2 の目的を達成するために、トップレベル競技者の競技水準の向上を図る必要があり、トップレベル競技者が同一の活動拠点で集中的・継続的にトレーニングを行う環境の整備を行う必要がある。	
⑪効率性	<b>【インプット】</b> 5,379百万円 <b>【アウトプット】</b> 10競技団体の専用練習場を有し、隣接する国立スポーツ科学センターとの連携・協力し、一体的に機能することで、より質の高い育成・強化活動が可能となる。	
⑫想定できる代替手段との比較考量	本事業は国の直轄事業により行うことにより、これまでの他の大型の施設整備の経験も踏まえ、効果的・効率的に事業を実施できる。	

⑬	指標・参考指標	ナショナルトレーニングセンター中核拠点施設の整備状況及び活用状況
効 性	効果の把握の仕方	国際競技力を定量的に示す指標の一つであるメダル獲得率について、夏季オリンピック競技大会については、ナショナルトレーニングセンター整備予定の2008年以降のオリンピック競技大会である2008年のオリンピック競技大会（北京）以降の競技結果を検証することにより把握できる。
	得ようとする効果の達成見込みの判断根拠	ナショナルトレーニングセンター中核拠点施設基本設計及び基本設計及び「ナショナルトレーニングセンター施設設計委員会」での検討結果による。 このことから得ようとする効果の達成見込みは、達成可能と判断できる。
⑭	公平性、優先性	平成16年9月1日に、小泉内閣総理大臣から、文部科学省が整備を進めているナショナルトレーニングセンター中核拠点の整備について、2008年の北京オリンピックに間に合うよう、計画の前倒しについて指示があった。
⑮	評価に用いたデータ・情報・外部評価等	平成13年8月からの「ナショナルトレーニングセンターの設置等の在り方に関する調査研究」及び平成16年7月からの「ナショナルトレーニングセンター施設設計委員会」における検討内容等を活用。
⑯	備考	

# 我が国のナショナルトレーニングセンター(イメージ図)

